

OSC2013 福岡セミナー: OSS の翻訳をやらないか

45 分ではたいしたことが話せないで、本当に導入だけです。翻訳に関心がある方はブース・懇親会や twitter など気軽に声をおかけください。また、明日 11 月 17 日(日)に開催する DocFest への参加も歓迎します (翻訳しなくても OK、途中入退室も OK です、気軽に遊びにきてください)

いいたいこと (ひとことでいえば「やらないか」)

翻訳への参加の敷居は高くないので、興味があればぜひ参加を。

「これ、誤訳じゃね?」とか「日本語が変」とか「わかりにくい。もっといい訳を思いついたぜ」とかあったら、通報 (関係者がいるところへ報告) よろ。一文字の誤字修正とかでも大歓迎。

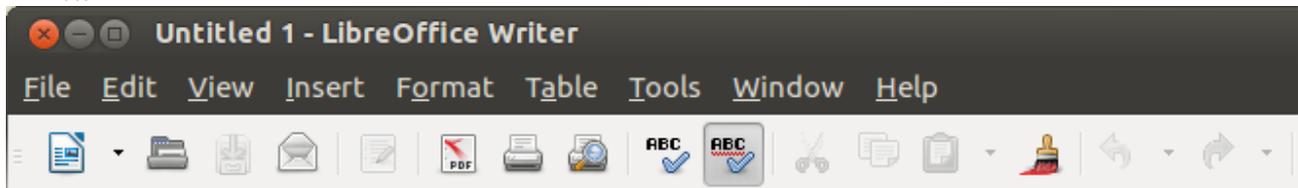
ドキュメント翻訳と UI 翻訳

ひとくちに翻訳といっても、いろいろあります。マニュアル等のドキュメント類を想像される方が多いかもしれません。今日は、自由ソフトウェアであるオフィススイートの LibreOffice のユーザーインタフェース(UI)とヘルプを主に取り上げます。

LibreOffice の web サイト (<http://www.libreoffice.org>) からは、さまざまな言語の対応版の LibreOffice をダウンロードすることができます。LibreOffice はさまざまな言語の話者が使うため、それぞれに合わせたユーザーインタフェース(UI)が用意されているのです¹。



日本語ユーザーインタフェース



英語(米国)ユーザーインタフェース

また、LibreOffice には組み込みのヘルプがあり、F1 キーを押すとヘルプを参照することができます (同じものが web でも公開されているので、LibreOffice をインストールしていなくても、web で読むことができます)。これにも、さまざまな言語のものが用意されています。

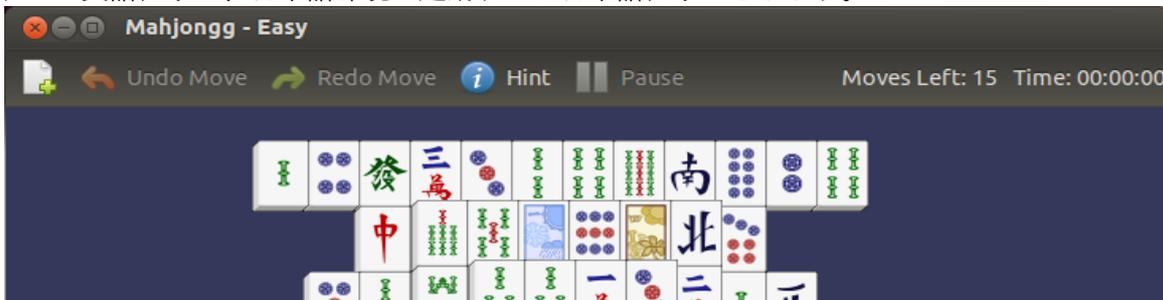
LibreOffice 関係の翻訳はこれだけではありません。LibreOffice の新バージョンのリリースやイベントのお知らせなどのニュースリリースも翻訳されています。

ニュースリリースのようなものは、後日書き換えられることはあまりないので、通常は、一回翻訳すればそれで終わりです。しかし、通常のマニュアル類、オンラインヘルプ、ユーザーインタフェースなどは原文が絶えず更新されているため、「訳を最新に保つ」ための労力が大きくなります。このような労力を軽減できるよう、po4a のような翻訳支援ツールがいくつかあります。

¹ 実は LibreOffice 本体は共通で、同梱されている UI の言語が違うだけです。

UI (ユーザーインターフェース) 翻訳の例

GNOME 上海 (gnome-mahjongg) のウィンドウの表示を例にとります。GNOME 上海は国際化されており、「英語版」「日本語版」といった区別はありません。同じ GNOME 上海でも、英語環境で起動すれば英語表示に、日本語環境で起動すれば日本語表示になります。



プログラムソースは以下のようになっています。(gnome-mahjongg/src/gnome-mahjongg.vala)

```
window = new Gtk.ApplicationWindow (this);
window.title = _("Mahjongg");
(略)
var label = new Gtk.Label (_("Moves Left:"));
```

さらに、以下のような翻訳ファイル (メッセージカタログ; po/ja.po) があります。gettext で国際化されたプログラムでは、このようにプログラムソースと翻訳を分離しています。翻訳を分離することで、コードを書く人と翻訳する人の作業が別に行えることや、原文更新時の訳の更新がしやすくなるというメリットがあります。

```
msgid "Mahjongg"
msgstr "GNOME 上海"

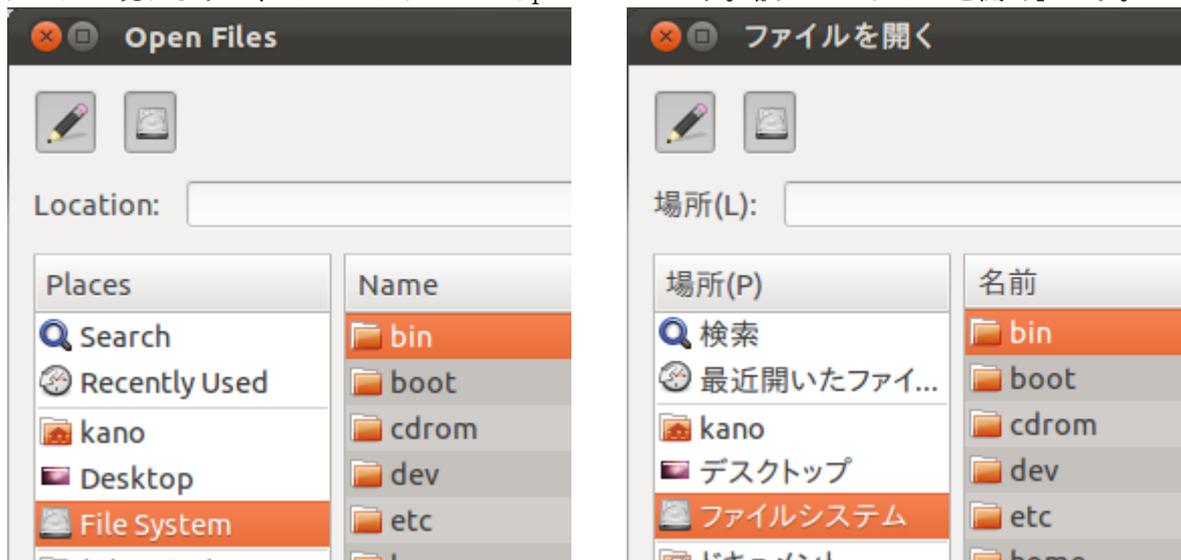
msgid "Moves Left:"
msgstr "取れる牌の組:"
```

Moves Left の訳にご注目ください。GNOME 上海では、牌を山から取る動作を “Move” としています。Moves Left は、山から取れる状態の牌が何組あるかを表しています。これを字面だけ見て「左に移動」などと訳してはいけないというわけです。UI の翻訳は、スペースの制約もあり、かなり簡潔なメッセージとなっていることがあります。このため、どのような状況や文脈で使われるメッセージか理解しないと、適切な翻訳ができないことがあるのです。

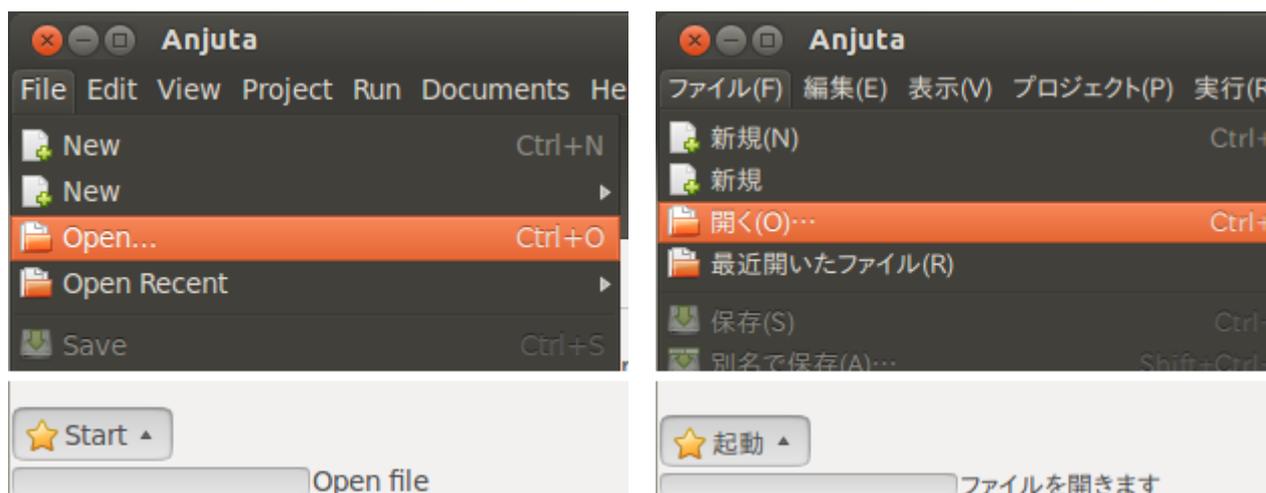
字面だけ見てはいけない例をもうすこし

同じ原文であっても、状況によって訳し分ける必要があります。“Open File(s)” という原文を例にとります。

GNOME 標準のテキストエディター gedit では、File(ファイル)→Open(開く)するとファイル選択ダイアログが現れますが、このタイトルが“Open File”です。訳は「ファイルを開く」です。



いっぽう、GNOME の統合開発環境 Anjuta では、File(ファイル)→Open(開く)を選択すると、ウィンドウ下部に“Open File”というヘルプが現れます。こちらの訳は「ファイルを開きます」です。



GNOME では、メニュー項目やタイトルなどは常体や体言止めとし、ヘルプやエラー・警告メッセージの本文などは敬体にするのが通例です(このあたりはプロジェクトにより異なります)。

これらは文体が違うだけなので実害は少ないかもしれませんが、同じ原文がまったく別の意味で使われることもあります。

gnome-system-monitor では、各プロセスがオープンしているファイルを調べることができます。プロセス一覧からプロセスを選んでから、右クリックあるいは View(表示) メニューから Open Files (オープンしたファイル) すると、“Open Files” というウィンドウが現れます。こちらの訳は「オープンしたファイル」です。

Open Files			オープンしたファイル		
Files opened by process "bash" (PID 2520):			"bash" (PID: 2520) がオープンしたファイルの一覧(F):		
FD ▾	Type	Object	FD ▾	種類	オブジェクト
0	file	/dev/pts/4	0	ファイル	/dev/pts/4
1	file	/dev/pts/4	1	ファイル	/dev/pts/4
2	file	/dev/pts/4	2	ファイル	/dev/pts/4
255	file	/dev/pts/4	255	ファイル	/dev/pts/4

このように、同じメッセージでも文脈によって訳が変わってきますし、直訳では意味不明なメッセージになってしまうこともあるので、メッセージの字面だけ見て翻訳をするのは危険です。

やらないか

このような説明をすると、難しいという印象を持たれるかもしれませんが、現に自分が使っているソフトを訳すのなら恐れることはありません。実際に操作して、どのような状況で使われるメッセージであるかを確認しながら翻訳すればよいのです。

もし、お気に入りのソフトがあって、未翻訳のメッセージがあったら、翻訳に参加してみませんか。あるいは、すでに翻訳されているソフトで、誤訳、誤字や、日本語として不自然な表現などに気づいたら、修正をしてみませんか。

コードについてオープンな体制をとっている(=リポジトリ、メーリングリスト、BTS 等が公開されており、バグ報告やパッチの提案などが誰でもできる) オープンソースプロジェクトなら、通常は翻訳についてもオープンな体制をとっていると思います。プロジェクトごとに参加の方法は異なりますので、まずは様子を眺めてみましょう。

翻訳作業はどのようにおこなわれているか

作業方法はプロジェクト毎にさまざまです。

GNOME や KDE の UI 翻訳などでは、翻訳者が po ファイルを直接編集しています。

同様の方式をとっている翻訳プロジェクトは多くあります。ファイルが po 以外の形式 (ts など) の場合もありますが、メッセージをプログラム本体から分離するという考えの基本は同じです。

これとは異なり、po ファイルを直接編集せずに、transifex, pootle, launchpad, translatewiki.net のような web インターフェースを使うプロジェクトも最近は多くなりました。

OSC 出展団体のなかには、「翻訳」を積極的に宣伝していないものの、翻訳活動をしているところが結構あります。関心がある方はブースのひとに声をかけてみてはいかがでしょうか。今日の出展団体を例にあげると、PostgreSQL は翻訳ファイル (UI は po、ドキュメントは SGML) を直接編集しています。Linux Mint は Launchpad を、LibreOffice は pootle を使っています。

実演 (LibreOffice UI 翻訳)

実際に LibreOffice の UI 翻訳を修正してみましょう。新規翻訳でなく修正なのは、LibreOffice では死ぬほどがんばって翻訳している人がいるので、ほぼすべて翻訳済みだからです²。

LibreOffice Calc (表計算) を起動し、「挿入」→「関数」すると、関数ウィザードが現れます。ここで、ROT13 を選ぶと、ROT13 関数の説明が表示されますが、「復号」が「複合」になっているという誤字 (誤変換?) があります。

² 未翻訳が数百メッセージありますが、残っているのは難しいメッセージが大半のはず。



一見して誤りとわかるので、実害はないではないかと思われるかもしれませんが、このような明らかな誤字・脱字の類のせいで、検索キーワードにヒットしないといったことが起こりうるので、修正する価値はあります。

LibreOffice の日本語翻訳は、TDF の pootle でおこなわれています。

<https://translations.documentfoundation.org/ja/>

4.0 と 4.1 の翻訳がありますが、今回は、最新の 4.1 で作業してみましよう。

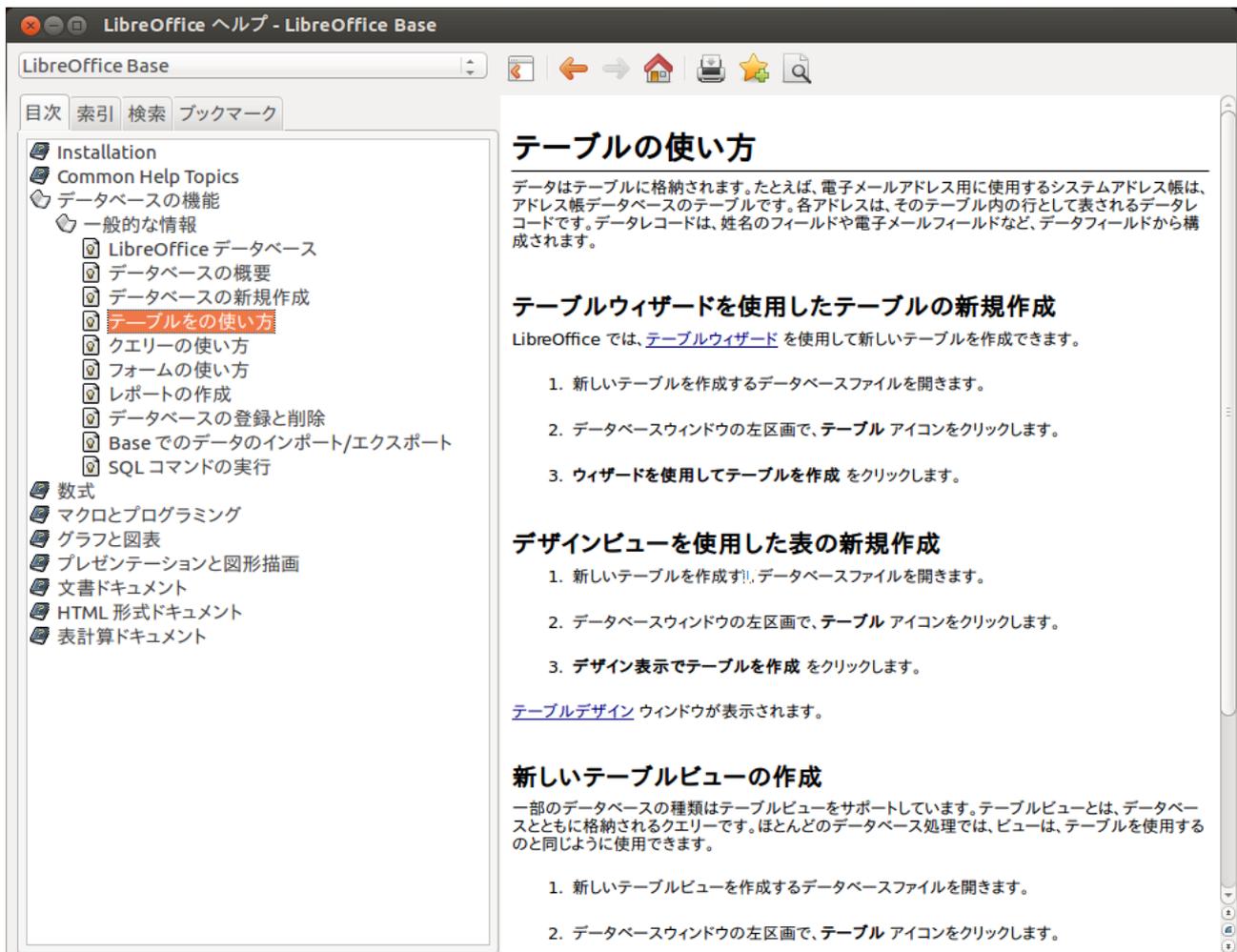
https://translations.documentfoundation.org/ja/libo_ui/

右上に検索用のフォームがあるので、ここに「ROT13」と入力すると、「ROT13」を含むメッセージが表示されます³。「複合」を「復号」に修正して、「提案」します(提案は、TDF の pootle にユーザー登録すれば、誰でもできます。採用権限を持つ人が確認のうえ、反映されます)。

実演 (LibreOffice ヘルプ翻訳)

日本語翻訳では人手が足りないため、ヘルプは UI ほど翻訳や査読が進んでいません。未訳が多かったり、変な訳が多いかもしれないということです。日本語のヘルプを見ると、「テーブルをの使い方」と書かれている箇所があります。これを修正してみましよう。「をの」は「の」の間違いですが、さらに、「一」も長音符でなく HORIZONTAL BAR (U+2015) になっています。

3 pootle の検索機能は、日本語での検索がうまくできないことがあります。類似メッセージが多数ある場合など、対象メッセージを見つけられない場合は、別の探し方がありますので、[discuss-ja](#) メーリングリストで相談するなどしてください。また、いきなり pootle 上での作業をするのは敷居が高い(ので誰かわりにやってほしい)といった場合も、遠慮なく相談してください。



日本語訳: https://help.libreoffice.org/Common/Working_with_Tables/ja

原文: https://help.libreoffice.org/Common/Working_with_Tables

ヘルプの原文は XML で書かれています。しかし、XML をそのままの形で翻訳するわけではありません。そのようなことをすると、原文が更新された際に、訳を原文に合わせて更新する作業が大変煩雑になるからです。

翻訳作業のために、ヘルプの XML も、UI 翻訳と同様の po ファイルに変換して管理しています。

```
XML の原文
http://cgit.freedesktop.org/libreoffice/help/tree/source/text/shared/guide/data_tables.xhp#n25
<title id="tit" xml-lang="en-US">Working with Tables</title>
```

```
po に変換されたもの (段落や箇条書きなどの単位でひとつのメッセージになっている)
https://translations.documentfoundation.org/ja/libo_help/translate.html#unit=30793509

#. LP4DE
#: data_tables.xhp
msgctxt ""
"data_tables.xhp\n"
"tit\n"
"help.text"
msgid "Working with Tables"
msgstr "テーブルの使い方"
```

こうすることで、原文の更新を反映する作業がやりやすくなるほか、po 翻訳のための各種ツールがそのまま使えるというメリットがあります。LibreOffice では、ヘルプ翻訳も、UI 翻訳とおなじく

pootle を使っておこなっており、作業方法は UI 翻訳とまったく同じです。

ありがちなもので、より実害が大きいものとしては、ヘルプの説明が実際の UI と食い違っているというのがあります。LibreOffice は OpenOffice.org から派生したのですが、UI 翻訳は大きく見直されています。しかし、前述のとおり人手が足りておらず、UI の翻訳変更がヘルプに反映されていないことがしばしばあります⁴。

もちろんこのほかにも、通常の誤訳などもあります。

査読依頼等

翻訳作業は人間のやることですから、何かしら間違いが起こり得ます。このため、査読などのプロセスが必要となります。LibreOffice では前述のとおり、「提案は誰でもできる」「採用は特定のメンバーのみできる」という方式をとっています。採用権限を持つ人は、自分の翻訳を自分で採用することもできますが、間違いを防ぐため、原則としてそのようなことはせず、別人による査読を受けるという運用をしています (これは Ubuntu などでも同様です)。

翻訳や修正の提案をしたら、査読を依頼しましょう。LibreOffice ではメーリングリストでおこなうのが基本です。

LibreOffice は多くの機能を持つ巨大なソフトウェアです。翻訳チームでは、そのようなものを少数⁵で翻訳しており、「全部を把握している人」はいないとお考えください。査読依頼をしたり翻訳の問題の指摘をしたりするときは、単に訳文を投げるだけでなく、どのような状況で表示されるメッセージかを説明したり、修正が必要な理由を説明したり、実際の表示のスクリーンショットをつけたりすると、査読がやりやすくなります⁶。

参考: もっと難しい例

今回のデモでは、時間の制約などもあるので、明らかな誤字修正にとどめました。

場合によっては、問題があることは明らかであっても、どう修正すべきかが明らかでないものもあります。議論して合意を取る必要があるケースや、原文や他言語との調整が必要なケースなどもあります。訳語の決定に際しては、他の翻訳プロジェクトと揃えたほうがよいケースもあります。

LibreOffice の日本語コミュニティでは、最近、縦書きの段落書式設定名が問題になりました。

<http://listarchives.libreoffice.org/ja/discuss/threads.html#02621>

[ja-discuss] Writer の縦書きページでテキスト枠を配置するときの挙動について



4 ドキュメントが、実際の UI や挙動と食い違っている場合、原文からして間違っていることもあります。

この場合は原文側に報告して修正してもらう必要があります。

5 アクティブな翻訳メンバーは数名です。

6 翻訳に限らず、ソフトウェア本体のバグ報告や要望をする場合にもいえることです。

図の上は横書き設定時の表示、下は縦書き設定時の表示です。この図はツールバー上のツールチップですが、ほかにも同様の問題がある箇所があります。

ラテン文字の縦書きは段落全体を単に 90 度回転させた程度ですみませんが、日本語の縦書きはそうではありません。このため、LibreOffice には日本語縦書き用の書式設定項目やメッセージがいくつもあります。

このケースでは、段落書式の配置のメッセージが、縦書きと横書きで共用されていたことが問題です。横書き用(「左揃え」「右揃え」等)と縦書き用(「上揃え」「下揃え」)を区別する必要がありますが、そのためには原文(メッセージだけでなく、コードも)を修正する必要があります。

そのためには、何が問題なのかを、日本語を知らない LibreOffice コミュニティの人たちに英語で説明しなければなりません⁷。

参考情報

LibreOffice その他のデスクトップアプリケーションの翻訳に際して参考になりそうなところとか。

- 日本語メーリングリスト (LibreOffice)
<https://ja.libreoffice.org/get-help/mailing-lists/>
- JA/HowToTranslate - The Document Foundation Wiki
<https://wiki.documentfoundation.org/JA/HowToTranslate>
- ~師範……アプリの日本語訳に挑戦してみたいです! (前編) ~ | 行っとけ! Ubuntu 道場!
<http://ascii.jp/elem/000/000/545/545101/index.html>
- ~師範……アプリの日本語訳に挑戦してみたいです! (後編) ~ | 行っとけ! Ubuntu 道場!
<http://ascii.jp/elem/000/000/549/549962/index.html>
- Translation (Ubuntu Japanese Wiki)
<https://wiki.ubuntulinux.jp/Translation>
- GNOME 日本語翻訳チーム参加者ガイド
<http://www.gnome.gr.jp/110n/gnomeja-guide/gnomeja-guide.html>
- Ubuntu Magazine Japan vol.08 の記事⁸: ホンヤクしようぜ!! 第 1 回 GNOME プロジェクト
<http://ubuntu.asciimw.jp/elem/000/000/010/10503/>
- Ubuntu Magazine Japan vol. 09 の記事: ホンヤクしようぜ!! 第 2 回 真打・Launchpad
<http://ubuntu.asciimw.jp/elem/000/000/010/10533/>

書いた人: おかの (Twitter @okano_t)

書いた日: OSC2013 福岡の前日 (OSC2013 北海道の資料を書き換え)

7 メッセージが分離されていても、コードや原文の作業者に各言語への配慮が不要になるわけではないということです。有名どころとしては、GNU make の「入ります ディレクトリ」というのがありました。

8 Ubuntu Magazine では、過去の号の記事の PDF ファイルを web 公開しており、一定の条件 (CC BY-NC-SA) 下で自由に利用することができます。挿絵の顔を全部松屋仮面にするといったことも可能です。ただし、紙の本が売れないと、刊行自体ができなくなるので、お金を出してもよいという気分になったら紙の本を買うといいかも (ステマ)。